

事務事業名	小笠原長清公顕彰会活動支援事業 ☐ 実施計画事業		所属部局	教育委員会		単位番号	12361					
			所属課室	生涯学習課		課長名	新津 岳					
			所属担当	生涯学習担当		担当者名	笹本芳美					
基本政策	基本計画体系	V 個性と文化を育む都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目		
				01	一般	1	0	0	4	0	6	0
政策	25	文化づくりの推進	事業区分	☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業 ☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業 ☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業 ☐ 義務化されている協議会等の負担金								
施策	39	歴史・伝統文化の振興										
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返（開始年度 年度） ☐ 期間限定複数年度（ 年度）		法令根拠									
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 小笠原長清公顕彰のため流鏑馬、礼法講座等を開催するための活動に対して補助金を交付する。 H22年度 流鏑馬1回 礼法講座10回 H23年度 流鏑馬1回 礼法講座10回			事業費の主な内訳（22年度）								
				項目(細節)		金額(千円)		項目(細節)		金額(千円)		
				団体補助金		2,580						
								計		2,580		

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と目標

① 活動	
22年度活動実績	流鏑馬、小笠原流礼法講座を開催し、市民に小笠原長清公を広く知ってもらった。
23年度活動予定	流鏑馬、小笠原流礼法講座を開催し、市民に小笠原長清公を広く知ってもらった。
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
市民 顕彰会会員	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	
南アルプス市ゆかりの小笠原長清公に対する認知度の向上	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
地域文化が保存・継承される。	

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 流鏑馬の開催回数	回
イ 礼法講座の開催回数	回
ウ	
⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 人口	人
イ 会員数	人
ウ	
⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 流鏑馬の参加者数	人
イ 礼法講座の参加者数	人
ウ	
⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 文化にあふれるまちとを感じる市民の割合	%
イ	

(2) 事業費・指標の推移				単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)	
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円								
			県支出金	千円								
			地方債	千円								
			その他	千円								
			一般財源	千円	2,597	2,580	2,500	2,500	2,500	2,500		
	事業費計 (A)			千円	2,597	2,580	2,500	2,500	2,500	2,500	0	
	人件費	正規職員従事人数		人	1	1	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間		時間	40	40	40	40	40	40	40	
		人件費計 (B)		千円	178	178	158	158	158	158	158	0
	(A)+(B)			千円	2,775	2,758	2,658	2,658	2,658	2,658	0	
	活動指標	ア	回	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0		
		イ	回	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0		
ウ												
対象指標	ア	人	73,000.0	73,000.0	73,000.0	73,000.0	73,000.0	73,000.0	73,000.0			
	イ	人	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0			
	ウ											
成果指標	ア	人	400.0	400.0	400.0	400.0	400.0	400.0	400.0			
	イ	人	230.0	230.0	230.0	230.0	230.0	230.0	230.0			
	ウ											
上位成果指標	ア	%	63.0	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0	65.0			
	イ											

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	合併前、旧町村時代から長く行ってきた事業である。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	伝統文化の保存・継承事業であり、状況の変化はあまりない。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	特になし

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容！】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由！】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	特になし
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	特になし

事務事業名	小笠原長清公顕彰会活動支援事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	-----------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 伝統文化の保存・継承に結びついている。
	②公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 地域文化が失われないために市が関与するのは妥当である。
	③維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 伝統文化の保存・継承のためには適切である。
有効性 評価	④成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 会員の増加に努め、講座等の周知を図り、もう少し市民に伝統文化を広めてもらいたい。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない
	⑥休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 地域文化の保存・継承が危ぶまれる。
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 年々補助金の削減が行われており、これ以上はなかなか難しい。
	⑧人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 現状でも最低限の人件費である。
	⑨受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 伝統文化を保存するためには保存会という受益者に補助金が偏っても仕方がない。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	会員に関しては新規会員の獲得が困難な状況であることを聞いている(会費足当時は旧榑形町役場の退職職員が会員になっていたと聞く)。今後は市長マニフェストにも「小笠原流礼法の積極的な活用」が盛り込まれていることから、礼法関連の活動を活発化し会員獲得、さらには礼法普及活動の中心となって活動を行うような指導をしていく。また小笠原流＝流鏑馬の意識が強いが多額な費用もかかるため(補助金の大半を占める)活動方向の見直しも求める。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table>				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について		※ 廃止・休止の場合は記入不要																						
① 礼法普及活動の強化		(5) 事務事業優先度評価結果																						
②		成果優先度評価結果	⑤																					
③		コスト削減優先度評価結果	⑨																					